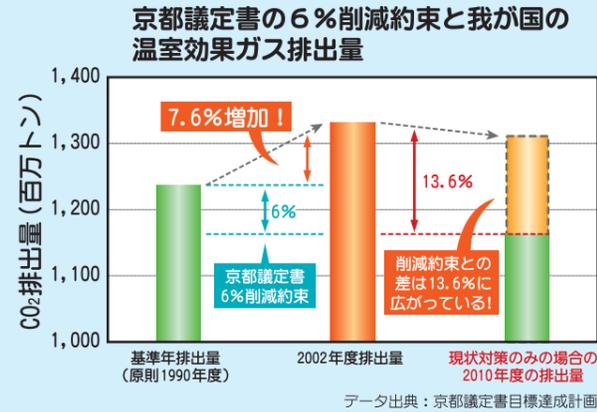


県民が行うこと

各界各層が一体となった取り組みの推進

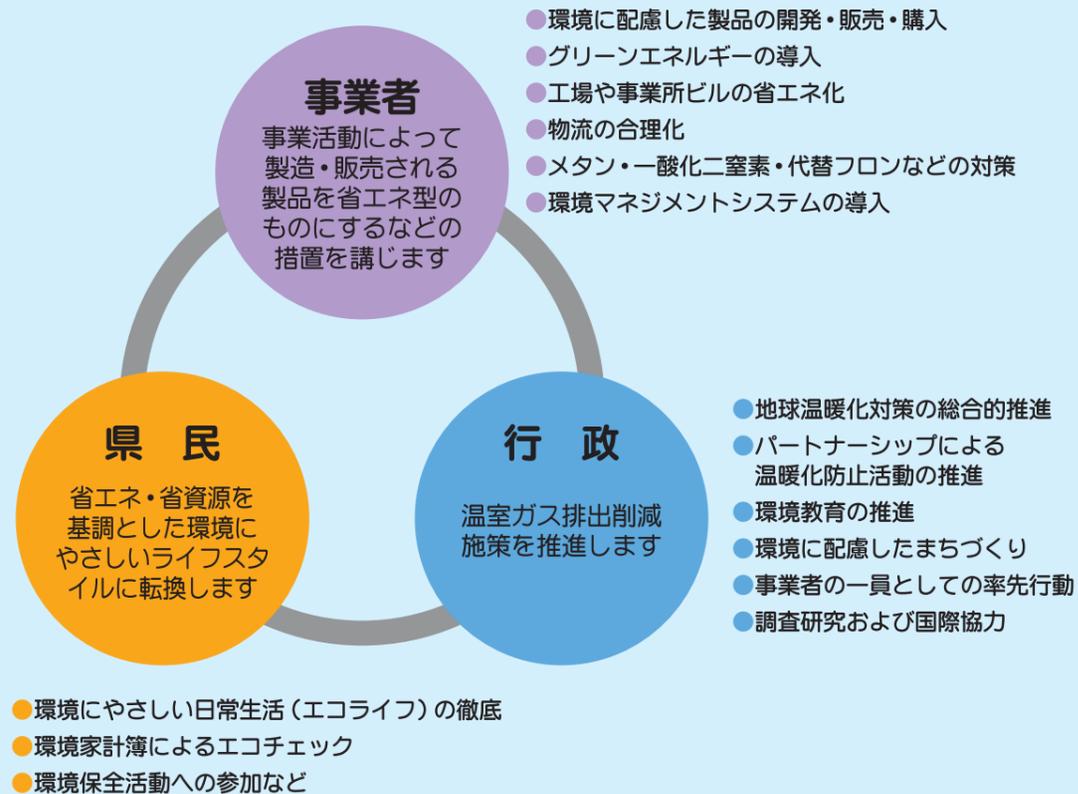
京都議定書では削減約束は6%となっていますが、現在、わが国の温室効果ガスの排出量は削減約束との差が13.6%に広がっており、京都議定書の目標達成は決して容易ではありません。

兵庫県においても、行政、事業者、県民といったすべての主体がそれぞれの役割に応じて総力を挙げて取り組むことが不可欠です。各界各層が実施可能な最大限の努力を払うという姿勢のもと、県内における2010年度の温室効果ガス総排出量を、1990年度に比べ6%削減することを目標としています。



主体別の行動の概要

行政、事業者、県民それぞれが出来ること、やるべきことは異なります。



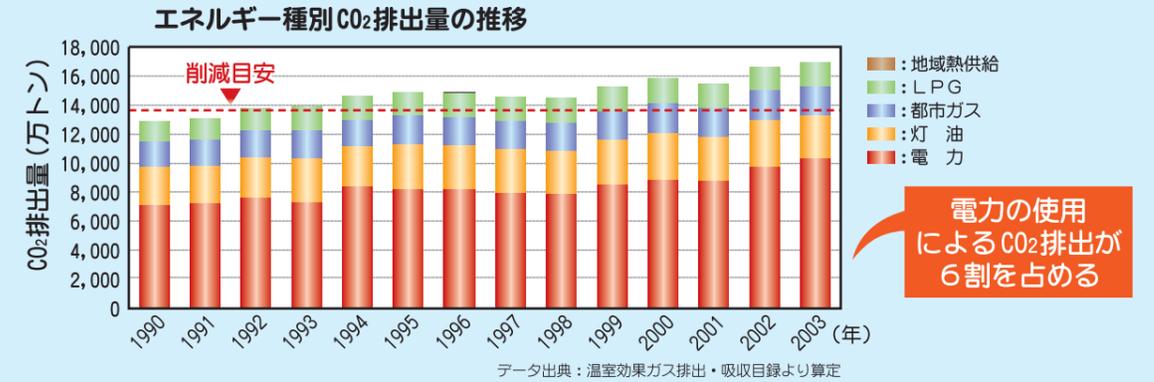
ポイント！

- 行政、事業者、県民といったすべての主体がそれぞれの役割に応じて総力を挙げて取り組むことが不可欠です。

環境にやさしい日常生活（エコライフ）の徹底

電力使用によるCO₂排出

エネルギー種別のCO₂排出量のうち、最も多いのは電力の使用によるものです。つまり電気を節約することがCO₂排出削減には効果的です。



例えば家庭で出来る電気の節約には以下のような方法があります。

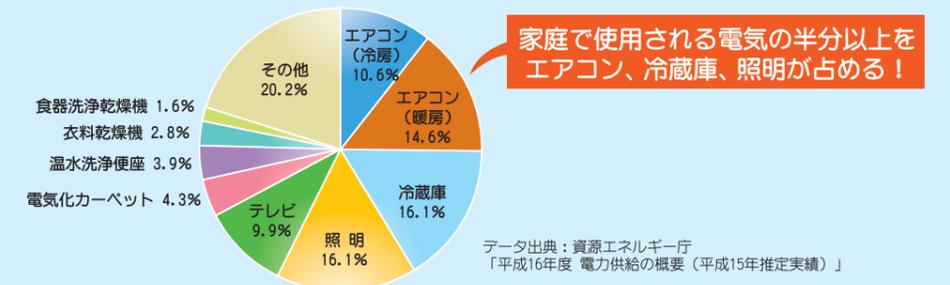
- テレビ・エアコン・ビデオなど、家電製品を使用しない時は主電源を切る、プラグをコンセントから抜く
- テレビの視聴時間やエアコンの使用時間の短縮
- 冷暖房の設定温度を適正なものにする（冷房は28℃以上、暖房は20℃以下）

エネルギー効率の高い家電製品などの使用

家庭における消費電力の内訳を示します。

エアコン・冷蔵庫・照明・テレビは特に消費電力が大きいので、それらの製品の使用時間を抑えるか、省エネタイプの家電を使用することで、効果的に消費電力を少なくすることが出来ます。例えば、照明は白熱電灯から蛍光灯に切り替えるだけで消費電力が少なくなります。

家庭における消費電力量ウェイトの比較



日常生活の中での省エネ行動は私達が出来ることの一例です。温暖化を止めるには、必ずしも我慢をして生活水準を落とさなければならないというわけではありません。

ポイント！

- 家電の電力消費を少なくすることが重要であり、かつ経済的です。
- 私達の努力によって「豊かな生活」と「地球温暖化対策」の両立は可能です。